

予 算 要 求 資 料

令和8年度当初予算

支出科目 款：教育費 項：特別支援教育費 目：特別支援教育振興費

事業名 岐阜県特別支援学校文化祭開催費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

教育委員会 特別支援教育課 教育企画係 電話番号：058-272-1111(内8687)

E-mail：c17783@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 100 千円 (前年度予算額： 100 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	100	0	0	0	0	0	0	0	100
要求額	100	0	0	0	0	0	0	0	100
決定額	100	0	0	0	0	0	0	0	100

2 要 求 内 容

(1) 要求の趣旨 (現状と課題)

- ・毎年11月から行われる岐阜県特別支援学校総合文化祭 (音楽発表会、美術作品展、美術作品移動展) の開催に係る経費の一部を負担。
- ・特別支援学校の児童・生徒にとって、日ごろの学習及び部活動等の成果を発表する貴重な機会であり、芸術・創作活動の機会の充実、感受性の育成を図る。

(2) 事業内容

岐阜県特別支援学校文化連盟に負担金 (100千円) を交付。

(3) 県負担・補助率の考え方

本事業は岐阜県特別支援学校文化連盟との共催事業であり、県負担は妥当。

(4) 類似事業の有無

なし。

3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
負担金	100	岐阜県特別支援学校文化連盟に負担金として交付。
合計	100	

決定額の考え方

--

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

第4次教育ビジョンにおいて、「文化芸術やスポーツなどの才能や個性を伸ばす機械の充実」のため、「学校等における文化活動の活性化」を行うことが目標として掲げられ、県特別支援学校総合文化祭の開催を支援することが明記されている。

事業評価調査書（県単独補助金除く）

新規要求事業

継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

- ・何をいつまでにどのような状態にしたいのか
- ・県民の皆様特別支援学校の活動を理解していただける文化祭となるよう、より多くの児童・生徒が参加でき、日ごろの文化活動を発表することができる機会を創出するため、令和10年度の音楽発表会参加児童生徒を60名、美術作品展出展作品数90作品を目指す。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前 (R)	R6年度 実績	R7年度 実績	R8年度 目標	終期目標 (R10)	
					目標	達成率
① 音楽発表会 参加児童・生徒数		※1 60	※2 0	50	60	0%
② 美術作品展 出展数		※1 100	※2 92	90	90	100%

※1ぎふ総文協賛部門として開催

※2今後の開催の在り方について考える一年として美術作品展のみ実施

○指標を設定することができない場合の理由

--

（これまでの取組内容と成果）

令和 4 年度	<ul style="list-style-type: none"> ・岐阜県特別支援学校総合文化祭の開催 音楽発表会：R4. 11. 22 美術作品展：R4. 11. 15～11. 27、みんなのもくもく作品展：R4. 11. 15～11. 27 ・開催を通して、特別支援学校に在籍する児童・生徒相互の一層の親睦と理解の促進を図ることができた。また、文化活動に日ごろから取り組むこと、他の学校に在席する児童・生徒の活動の様子や作品に触れることにより感受性の育成に繋がった。
	指標① 目標：60 実績：54 達成率：90% 指標② 目標：90 実績：92 達成率：102%
令和 5 年度	<ul style="list-style-type: none"> ・清流の国ぎふ総文2024 特別支援学校部門 プレ大会の開催 音楽発表会：R5. 11. 22 美術作品展：R5. 11. 14～11. 26 ・開催方法の工夫により、音楽発表会へ多くの児童生徒が参加でき、特別支援学校に在籍する児童・生徒相互の一層の親睦と理解の促進を図ることができた。また、文化活動に日ごろから取り組むこと、他の学校に在席する児童・生徒の活動の様子や作品に触れることにより感受性の育成に繋がった。
	指標① 目標：60 実績：80 達成率：133% 指標② 目標：90 実績：100 達成率：111%

令和6年度	<ul style="list-style-type: none"> 清流の国ぎふ総文2024 特別支援学校部門開催 音楽発表会：R6. 8. 1～8. 2 美術作品展：R6. 7. 31～8. 2、作業製品販売会：R6. 8. 1～8. 2 開催を通して、特別支援学校に在籍する児童・生徒相互の一層の親睦と理解の促進を図ることができた。また、文化活動に日ごろから取り組むこと、他の学校に在席する児童・生徒の活動の様子や作品に触れることにより感受性の育成に繋がった。
	指標① 目標：60 実績：60 達成率：100% 指標② 目標：90 実績：100 達成率：111%

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

<ul style="list-style-type: none"> 事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断) 3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない 	
(評価) 3	日頃の文化活動の発表の場を確保することで、児童・生徒の学習意欲や県民の理解促進の機会を創出することができる。また年1回、複数の学校の児童・生徒が集まる機会としての特文祭を補助する本事業は必要。
<ul style="list-style-type: none"> 事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) 3：期待以上の成果あり 2：期待どおりの成果あり 1：期待どおりの成果が得られていない 0：ほとんど成果が得られていない 	
(評価) 3	音楽発表会の観覧者の増加や内容の充実、美術作品展、美術作品移動展での出展作品数の増加していることから、芸術・創作活動の機会が充実していることが確認できる。これらの観点からみて、本事業は有効。
<ul style="list-style-type: none"> 事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか) 2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている 	
(評価) 2	オンラインを活用した発表・展示や、美術作品移動展を4コースに分けて実施する等、一人でも多くの児童・生徒が参加、交流することができ、より多くの県民の皆様の目に触れる開催方法を常に模索している。

(今後の課題)

<ul style="list-style-type: none"> 事業が直面する課題や改善が必要な事項 より多くの学校、児童生徒が参加できる展覧会、発表会の在り方の検討。 観覧者数の増加と、そのための広報の工夫。 特別支援学校在籍児童生徒の多様化への対応。
--

(次年度の方向性)

<ul style="list-style-type: none"> 継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか <p>特別支援学校の文化活動の発表の場、児童・生徒の交流の場、県民の皆様が障がいのある児童・生徒や特別支援教育に対する理解を深める場として大きな意義がある。個々の学校、児童・生徒の特性に寄り添った参加方法の改善や広報の工夫に務め、継続すべき。</p>

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント 又は事業名及び所管課	【〇〇課】
組み合わせる理由 や期待する効果 など	